



明治時代に色付けされた美しい地図が作られていたらしいけど？

迅速測図原図(フランス式彩色図)のことじゃ。

国土地理院のWebサイト「古地図コレクション」で見られるらしいぞ。



【迅速測図原図とは】

「迅速測図原図」とは、明治前半の2万分1地形図で、全国測量の第一歩として、我が国初めての広域測量であり、近代測量の基礎となったものです。明治13年(1880年)から関東地方の測量に着手し、明治19年(1886年)まで作製されました。

「迅速測図原図」の正式な名称は「第一軍管地方2万分1迅速測図原図」といい、フランスの地図表現技法を引き継いだ美しい彩色があることから「フランス式彩色図」とも呼ばれています。また、その特徴として、地図の図郭外に視図(しず)と呼ばれるスケッチが描かれています。

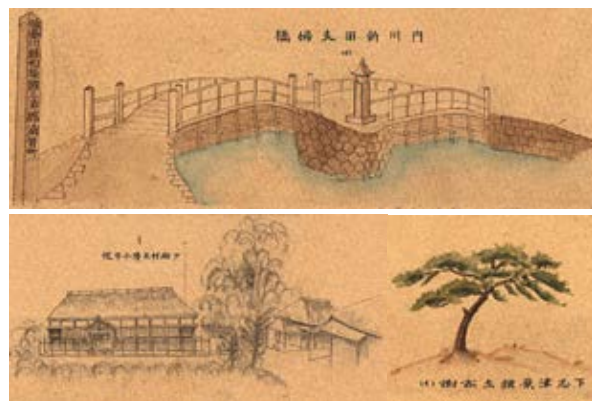
「迅速測図原図」の整備範囲は、関東平野・房総半島・三浦半島で、全部で921枚あり、原図は1枚も失われることなく国土地理院で保存しています。



図郭外に視図(スケッチ)が描かれています。

【視図とは】

独立樹や神社、橋梁など目標となるものをスケッチしたものです。これらは、江戸時代の面影を残していた明治初期の日本の景観を、西洋画の技法により巧みに描写したもので、美術的にみても貴重なものです。迅速測図原図は、明治13年から明治19年まで作製されましたが、視図は明治16年までに作製された原図にしか描かれていません。



【古地図コレクションとは】

江戸時代に作製された214枚の伊能大図や明治時代に作製された921枚の迅速測図原図をはじめとした古地図1,417枚(3月末現在)を紹介している国土地理院のWebサイトです。



【最後に】

「古地図コレクション」では、「迅速測図原図」をはじめ、様々な古地図を紹介しています。ぜひ一度サイトを訪れてみてはいかがでしょうか。

(地理空間情報部)